

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2373900469
法人名	有限会社愛敬
事業所名	グループホームみどり
訪問調査日	平成 20 年 3 月 8 日
評価確定日	平成 20 年 5 月 9 日
評価機関名	社会福祉法人愛知県社会福祉協議会 施設福祉部

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年3月8日

【評価実施概要】

事業所番号	2373900469
法人名	有限会社愛敬
事業所名	グループホームみどり
所在地	愛知県稲沢市北島5丁目55番地 (電話) 0587-36-0707
評価機関名	社会福祉法人愛知県社会福祉協議会 施設福祉部
所在地	名古屋市中区丸の内2-4-7
訪問調査日	平成20年3月8日

【情報提供票より】 (2月10日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 <u>平成</u> 15 年 7 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	10 人	常勤	6人, 非常勤 4人, 常勤換算 8人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	2階建ての	1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	38,000~40,000 円	その他の経費(月額)	実費 円	
敷金	有(円)	<u>無</u>		
保証金の有無(入居一時金含む)	<u>有</u> (200,000 円) 無	有りの場合償却の有無	<u>有</u> / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または1日当たり 1,166 円			

(4) 利用者の概要 (2月10日 現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	3名	要介護2	6名		
要介護3	4名	要介護4	3名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 86.7 歳	最低	70 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	木村内科 塚本歯科
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの周囲には田畑があり、自然豊かに季節を感じながら生活できる環境にある。運営理念を「入居者が主人公」と「尊敬と誇り」とし、入居者の思いや生活暦の把握を大切にした生活支援が行われている。法人は、地域と密着した事業に係属しており、市町村との連携や住民との交流が日ごとに進み、地域での理解も深まっている。当ホームはグループホームとして設計、新築されており、芝生のみどりや季節の花で癒されるようにと明るく広い窓や遮光したテラスなど、ハード面でも工夫されている。関連会社のバスの利用で家族も一緒に遠出が可能である。又、趣味や娯楽など入居者に応じた楽しみ事も多い。2階建ての2ユニットながら、入居者の状況は職員全体で把握しており、職員相互の協力体制が出来ている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 理念の明示や服薬支援、職員のストレス解消、玄関周りの雰囲気作りに取り組み、改善が行われている。夕食後の職員確保が難しいため、その時間帯の入浴が出来ないことと、家族に了解を得ているが、日中の玄関の施錠が課題として残っている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 全ての職員が評価の意義を理解しており、自己評価の実施後、職員の話合いの場を持ち、普段気づけなかった事柄の再確認を行っている。今後も全ての職員で実施する体制の維持が望まれる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 評価結果を報告し、課題について出席者の意見を聞き改善に役立てている。行事での交流や、外出希望など民生委員や入居者、家族から活発な意見が出されており、質の向上に活かされている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 毎月ホーム便りで報告し、家族会や運営推進会議で意見や要望を聞いている。支払いを兼ねて家族に訪問してもらい意見を聞く機会も作っており、言いづらいことは意見箱に出すことも可能である。家族からの意見は支援に活かされてきている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の行事への参加やグループホーム主催の行事への参加呼びかけなど交流は進んでいる。近所の人が収穫した野菜を届けてくれたり、子供会の役員交代の挨拶もあり、地域の一員としての付き合いができています。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人代表は高齢者の世帯が多い地域であるので、グループホームの必要性を痛感して立ち上げており「入居者が主人公」と「尊敬と誇り」の2本柱の理念を掲げ、地域に根ざしたサービス提供を心がけている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者や職員とも理念を理解し、事務所内の目に留まる場所に掲示し、常に確認しながらサービスを提供している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事への参加やホームの夏祭りに家族と共に地域住民にも参加を呼びかけるなど、親交は進んでいる。自分が栽培した農産物を入居者に届けてくれたり、子ども会の役員が引継ぎの挨拶に訪れる等、日常的な交流が行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全ての職員が評価の意義を理解しており、改善点については職員のミーティングや運営推進会議で話し合い、質の向上に取り組んでいる。評価項目からサービスのあり方を再認識している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では評価結果を報告し、出席者の意見を聞き改善に活かしている。民生委員や入居者も活発に意見を出しており、服薬の確認の工夫や理念を明示し会議でも伝えるなど、質の向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所は市との情報交換などが進んでおり、社会福祉協議会の協力や中学生の職場体験の受入れなど連携も深まっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月ホーム便りで健康状態や暮らしぶりなどを伝え、支払いは現金で行うことにして家族と話し合う機会を作り、小遣帳の確認や金銭の収支報告を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時に苦情などの窓口を家族に伝え、運営推進会議や家族会で意見や要望を聞く機会を作っている。言いづらいことを伝えられるよう意見箱も設置し、家族に伝えている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は最小限にするよう努力しており、離職を防ぐよう人間関係を良くし、新しい職員はいきなり入居者のケアにあたらず台所仕事から始めるなど、入居者の不安を抑えるように配慮している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	順次外部研修の機会を作っており、今月の予定も職員に伝わっている。現在資格取得に挑戦している職員もいるが、管理者は、本人の意見も聞き負担にならないように応援している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年に4回実施される市の研修会やネットワークでの情報交換をしており、市内の他のグループホームをお互いに1日体験しあうなど同業者との交流を通じ、良いところを参考にするなど、質の向上に取り組んでいる。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学や体験入所は可能であり、急ぐことなく本人や他の入居者の様子を見ながら抵抗なく馴染んでいけるよう家族の意見も聞きながら取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活暦を知り、編み物や刺し子を教えてもらったり、豊かな経験から得た知識を学ぶなど日常生活の中で支えあう場面が作られている。入居者が製作したベンチや編み物など完成品がホーム内で活かされている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話の中で暮らし方の希望など把握するよう努めている。出かけたい人やゆっくりしたい人、中にはホテルのようにお客様になり暮らしたい人もいる。共同生活の中で出来る限り希望に沿えるよう支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族、主治医などの意見を聞きながら計画を作成し、職員の意見から夜勤対応などで課題が見つかったらプラン担当者が実施して、サービスに加えるなどの工夫をしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは半年ごとに行い、必要に応じて随時見直しがなされているが、申し送りで行なわれており書面に記入されていない。	○	ミーティングを毎月定例化し、介護計画は少なくとも3ヶ月ごとに見直し、入居者に変化があった時には本人や家族、主治医と話し合い、新たに計画を作成することが望まれる。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	臨時の移動美容院の利用や2ユニットの協力的体制、法人関係会社のバスの利用による遠足の実施など本人や家族の要望に応じた支援がなされている。居室に空きがある場合はショートステイサービスも提供している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は月2回往診があり、毎週日曜日には入居者の様子を見に立ち寄ってもらえる。入院が必要な場合は、市民病院と協力関係ができており家族も安心している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在その状態に近い入居者がおり、本人、家族の希望と職員の同意でホームの居室で支援しているが、運営者、管理者、職員でまだ意見が一致していない。	○	終末期のあり方について関係者でよく話し合い、ホームとして統一の方針を定め、それに即したマニュアルの作成など検討が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	理念にも掲げて、実践されており、言葉かけや記録の保管に配慮している。プライバシーを確保するために、居間にカーテンをつけるなどの工夫をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活を保ちながらも入居者それぞれのペースで生活しており、食事の時間差を気にすることなく楽しんでおり、好きなテレビや読書に興じる人など自由に時間を過ごしている。地域の人から本の提供などの協力も得ている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブルは自由に組合せができ、好きな人とあるいは皆と一緒に食べることが出来る。介助の必要な人には会話をしながら、その人のペースで支援し、後片付けなどの出来ることは見守りで支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は2日に一度であるが、2ユニットあるので交互に入浴日を決めており、希望であれば毎日の入浴も可能である。時間は2時から夕食の間に支援されている。	○	ユニットごとに毎日希望の時間帯に入浴できる支援が期待される。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	手芸や大工に興じたり、読書や野菜の収穫など室内外で楽しみや得意なことを発揮できる場面があり、ボーリングやダーツなど手作りの道具でも楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常の散歩や買い物の他、外食や喫茶店の利用など店の協力も得られている。入居者の希望で、家族と共に水族館に出かけたり、遠足にも出かけている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	徘徊する人がおり、防犯も兼ねて家族の了解を得て、玄関は常に施錠されている。	○	交通量も少なく近隣の理解も得られているので、協力をお願いするなどの検討が望まれる。徘徊する人をどのように見守るかをケアプランに入れ、職員の多い日中は鍵をかけない支援の取り組みが期待される。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	水や米の備蓄はされている。避難場所として近くのお寺の了解も得ており、消防署の協力の下、避難訓練も年1回実施されている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量や水分摂取は毎日記録されており、おやつなどで補給するなど不足しないよう支援されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は広くゆったりとくつろげるソファがあり、2ユニットが合同で楽しむ事も多い。季節の花や芝生は気持ちを和ませてくれ、明るく家庭的な雰囲気である。暖かくなると庭のデッキでくつろぐ事も可能である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はそれぞれの好みの衣装ケースなどを配置しており、馴染みの物を多く持ち込んでいる人や思い出の写真を飾る人など特徴のある居室となっている。		

※  は、重点項目。